

2-2-4 呑川の野鳥

呑川は野鳥にとって快適か？

橋本文興

呑川（工大橋から河口まで約 9.5km）で見られる野鳥は多いのでしょうか。「呑川は流れる 2004 年版に野鳥の種類は 19 種（平成 14 年）」と記載があるが最近の生物調査では 30 種近く（平成 25 年度版、大田区の環境調査報告）が確認され種類は増えていると想定される。また飛来する数も増えていると思われます。

呑川の野鳥の調査は 2008 年～2010 年に「ラインセンサス調査」を東京海洋大学の赤木光子氏によって行われた記録がある。その論文に「カモ類の分布から見た呑川の河川環境の特性」について調査研究報告がなされている。詳細は別冊資料編を参照されたいが、工大橋から堤方橋まで 4.6km のカモ類の生態について調査しカモの種類、飛来する時期、等についても短期間ではあるが観察された考察が載っている。近年でもカモ類は赤木氏の観察された種類や飛来時期、数は年により多少増減があるがほぼ同じ程度と思われます。カルガモの数について平成 29 年 5 月初旬夫婦橋から工大橋まで調べた結果 68 羽が観測されました。

呑川で見られる野鳥も一年中見られる「留鳥」や国内を季節によって移動する「漂鳥」春から夏にかけて南方から渡来する「夏鳥」秋に北方から渡来する「冬鳥」や日本を中継し移動する「渡り鳥」に分類されます。（資料編参照）

野鳥にとってコンクリート三面の環境は良いのでしょうか。河川環境は上流、中流、河口と特性がありますが上流から中流は野鳥が多く見られる。特に中流域の 1.2km は 5m の護岸下河床に植栽や石が配置され通年カルガモやセキレイが見られる。水深については護岸から中央に傾斜があり小鳥が水飲みや水浴びが可能となっている。これは野鳥にとって重要な点です。また一部淵がありカワウがウナギを捕らえている場面も観察された。

呑川の水質は下水の高度処理水で養分が豊富で冬場も温度(15℃程度)が高いためモが発生しユスリカの問題があるが、一方野鳥の餌になっている面もある。擁壁にユスリカが付く時期はシジュウカラ、メジロ、ツグミ、セキレイ、スズメ等が見られます。

餌となる昆虫や小魚も大田区の調査でも多くの種類が見られます。特にボラの大群には驚きます。コサギ、アオサギ、ゴイサギの魚食餌場面は度々みられます。JR 鉄橋より下流部や河口に近い部分ではユリカモメ、コアジサシ、カイツブリ等が多く見られます。

赤木氏の考察に「カモ類が安心して利用できる水域条件として、人間、捕食者から適当な距離（約 30m）を保つことが出来ることや視覚的な遮蔽物によって隔離されることが重要である」とあります。

野鳥が、呑川は安全な場所として見なしている条件がある程度満たされて休息しているのでしょうか。護岸高さが約 5.0m と柵もあり猛禽類が近寄り難いのも良いのかも知れませんが、また夜間に襲われる（猫等）心配がない、強風を避けられる点も野鳥が集まる要素化かもしれない。

呑川での身近な野鳥観察は考えようでは良いのかもしれない。狭い範囲で多くの野鳥が観察でき餌場となる淵は少ないが線上のエリアは野鳥それぞれに分散されています。呑川の護岸に緑化対策としてヘデラ等が一部植えられているが野鳥の隠れ家にも利用されている。ゴイサギ、カワセミが出入りしているところが観察される。

呑川で人気のカルガモは毎年ヒナが多く現れるが大雨等にあい消えてしまうのは残念です。避難する場所（高地）がないことが問題ではと思いますが池上橋より下流は犬走りか潮により段差ができます。水面から傾斜護岸があればヒナは助かると思うのです、親水公園や野鳥の避難が可能な環境を整えてほしいものです。

呑川沿いを散歩しながらまた買い物の途中でも川を覗けば野鳥を見つけ、時にはカルガモ親子に癒され、カワセミの姿に歩みを止め呑川は魚や鳥が意外と多いことに気が付くことでしょう。呑川の河床や側道沿いの公園には野鳥の好む木も多く植えられています。初春にウグイスやメジロが見られると感動します。桜の花を散らすムクドリも多くやってきました。呑川の野鳥は季節により増減はありますが上流下流どこでも必ず観察出来ます。これからもより良い河川環境を維持して野鳥が常時観察できるような親しみ易い呑川にしていきたいものです。

（参考）ラインセンサス：あらかじめ定められたコースに沿って歩き目視や鳴き声によって野生生物の種類や数を調査する方法。

（参考文献）「日本の鳥 300」著者：叶内拓哉、発行所：株式会社 文一総合出版

（資料編）

○呑川で多く見られる野鳥の一部（30種）を紹介。

留鳥：一年を通して生息する鳥。

漂鳥：国内を季節移動する鳥。留鳥の大半はこれにあたる。

夏鳥：春に日本より南の地域から渡ってきて繁殖またはその期間長く観察され秋に南の越冬地へ渡る鳥。

冬鳥：秋に北の地域から渡ってきて繁殖またはその期間長く観察され秋には南の越冬地へ渡る鳥。

- ① **カルガモ**（留鳥）呑川で通年見られます。カモ類の中でも珍しく雌雄がほぼ同色です。嘴が黒色で先が黄色、足はオレンジです。首を水中に伸ばし逆立ちして水草を食べる姿が良く見られます。春から夏にかけて子ずれで行動する姿を見かけます。主に草や水草の茎、種子、昆虫など水中、陸上でも採食している。特に呑川の藻類を良く食べている状況が見られます。秋になれば新しい群れをつくり移動しまた春に呑川へ帰ってくると思います。全長 61cm
- ② **カワウ**（留鳥）多摩川や野鳥公園には大群でいますが呑川へ集団では来ない、ペアーか単独で飛来し霊山橋の近くで羽を乾かしているのが良く見かけられる。ウ類は他の水鳥より脂分が少なく水分をはじけないため、翼を広げて日光浴すると資料に在ります。全

長 81cm と羽を広げると大きい、かなりの餌（魚類）をとるため養魚場では警戒されているが呑川はそれなりに豊富な餌（ボラ、等）が確保できるのか。

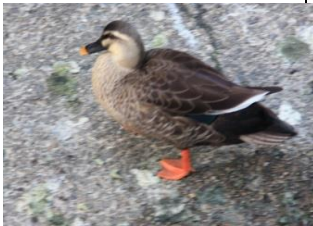












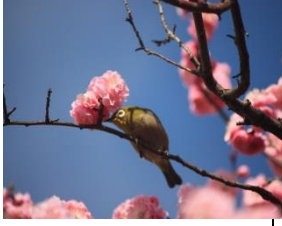



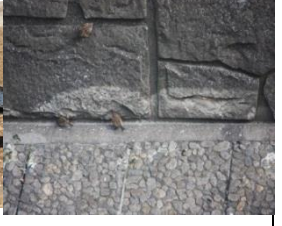

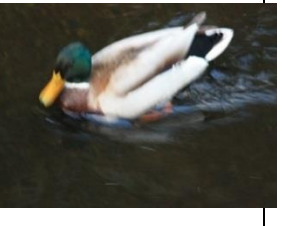
- ③ **カワセミ**（留鳥）水辺の宝石（翡翠鳥）とも云われ色合いの美しさから野鳥の中でも人気がある。ここ数年、見られる機会が増えました、ホバリングしてエサを探し水中に飛び込んで捕えます。カワセミは洗足池でも観察されている、呑川を経て洗足流れを上下している様子が見られている。洗足流れには途中に池がありコイやフナが泳いでいるがネットで保護されている。全長 17cm
- ④ **コサギ**（留鳥）呑川上流で通年見られる。嘴は一年中黒い。ぜんたいに白く蓑状の飾り羽は冬でもある。全長 61cm
- ⑤ **アオサギ**（留鳥）日本のサギ類では一番大きい。両翼を広げると 1.6m 以上になります。半夜行性、JR 下や仲之橋で見られる。全長 93cm
- ⑥ **ゴイサギ**（留鳥）夜行性で夕方餌場に立つ。全長 57.5cm
- ⑦ **カイツブリ**（留鳥）カモ類より小さい水鳥。潜水を繰り返して餌を捕らえます。河口に多く見られる。全長 26cm
- ⑧ **イソシギ**（留鳥）常に腰を上下に動かしながら歩く、呑川河口に多い。全長 20cm
- ⑨ **ハクセキレイ**（留鳥）常時見られる野鳥、特徴は尻尾を上下にちょこちょこ移動する。河床で水浴びをしたり水生昆虫を食べる、擁壁にへばりつきユスリカを食したりもしている。全長 21cm
- ⑩ **オナガ**（留鳥）一年中群れで生活する。鳴き声はギイーイゲーなどいろいろ。全長 37cm
- ⑪ **ヒヨドリ**（留鳥）「ヒーヨヒーヨ」となく、波状に飛ぶ、秋になると群れで移動するのが見られる。全長 27.5cm
- ⑫ **ムクドリ**（留鳥）数百から数千の大群になることが多い。全長 24cm
- ⑬ **シジュウカラ**（留鳥）いつも身近に見られる、おなかの黒いネクタイのような模様が特徴。「ツツッピーツツッピー」とさえずる。生け垣のクモ、昆虫、種子を食べる。全長 14.5cm
- ⑭ **メジロ**（留鳥）緑色の体と目の周りの白い輪が目立ちます。花の蜜を好む。全長 11.5cm
- ⑮ **ウグイス**（留鳥）「ホーホケキョ」という囀りが聞けますが姿は見つけにくい、藪の中で「チャッチャッ」地鳴きする。大田区の鳥として指定されている。全長 15.5cm、公園の茂みで声を聴けたことがあります。
- ⑯ **モズ**（留鳥）9月半ばから数が増え、梢など尾をゆっくり回しながら「キイーキイー」と高鳴きをする。昆虫等をハヤニエにする。全長 20cm
- ⑰ **ハシブトカラス**（留鳥）嘴が太く「カアーカアー」と澄んだ声で鳴きます。全長 56.5cm
- ⑱ **スズメ**（留鳥）最も身近な鳥、群れで生活する。全長 14.5cm
- ⑲ **ワカセホンセイインコ**（留鳥）外来種、緑色で尾が長いのが特徴、キューキューと鳴きながら移動する。全長 40cm
- ⑳ **マガモ**（冬鳥）雄は緑色の頭をして黄色い嘴と白い首輪のような模様があります。アイ

ガモは（アヒルとカモを掛け合わせた品種）マガモと外見が似ているから注意が必要。またマガモの雌は雄と見た目が違っている。高級カモ肉はマガモがつかわれる。全長 59cm

- 21 **ヒドリガモ**（冬鳥）額から頭頂にかけてのクリーム色、顔から頸は茶褐色、嘴は鉛色、全長 49cm
- 22 **オナガガモ**（冬鳥）雄は尾が長い、オナガガモはよく水面に頭を突っ込むように逆立ちしてエサを採る姿を見受けられる。これは海カモのように完全に水中に潜ることが出来ないからである。全長 75cm（メス 53cm）
- 23 **キンクロハジロ**（冬鳥）白黒の体に、目が黄色という特徴ある姿をしている。良く見ると雄の頭部は髪が見える。キンクロハジロは海カモに分類され水上で生活し餌は潜水して貝類を食べる。全長 40cm
- 24 **ホシハジロ**（冬鳥）潜水カモ、嘴は黒く中央は鉛色、頭部から頸は赤茶色、胸と尻は黒い、背や脇腹は白く波型の模様。全長 45cm
- 25 **オオバン**（冬鳥）全体が黒く額と嘴が白いことが特徴。前に進むたびフリフリと首を前後に動かしているのが特徴。オオバンの水かきはカモのように指同士が繋がっている水かきと違い 3 本の指が独立している、そのため力いっぱい水かきし、反動で首が動く。全長 39cm
- 26 **コガモ**（冬鳥）はカモ類の中で一番小さく、嘴は黒い、雄は目の周りから頭部が緑色、体の中央は縦線、雌は目立たない。全長 37cm
- 27 **ユリカモメ**（冬鳥）は東京都の鳥として指定されているまた、新交通システム名称で親しい。冬鳥として 11 月頃全国の河口、海岸、湖の水辺にやってくる。カモメ類では一番内陸部まで来る。洗足池で群れが観察されるが呑川では河口部のみ見られる。嘴と脚が朱色で小形のカモである。雑食性で何でも食べる、日本にはカムチャッカ半島から渡ってくるのが判明している。日本を去る 4 月末には頭が黒い頭巾を被ったように変る。全長 40cm
- 28 **キセキレイ**（冬鳥）大きき動作はハクセキレイと同じ、黄色いお腹が特徴。全長 20cm
- 29 **ツグミ**（冬鳥）足早に 2~3 歩歩いてピタッと胸を張って止まる行動を繰り返す。全長 24cm
- 30 **コアジサシ**（夏鳥）森ヶ崎下水再生センター屋上で繁殖が見られる、河口で見られる。ホバリング急降下で魚を捕らえます。全長 24cm
- 31 **ツバメ**（夏鳥）呑川のユスリカを食べる。最近は巣を見るのが少ない。全長 17cm
このほか、セグロセキレイ、ハウジロ、ドバト、キジバトも時々見られる。また近年はハシヒロガモ、カンムリカイツブリが観察されています。

（参考文献）「日本の鳥 300」著者：叶内拓哉、発行所：株式会社 文一総合出版

呑川の野鳥（31 種）

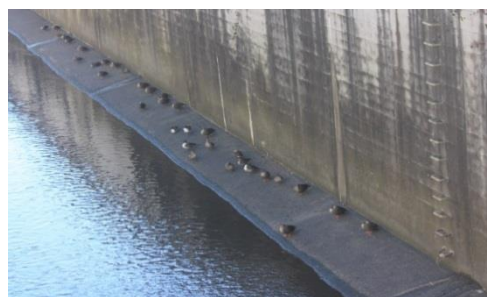
			
① カルガモ	② カワウ	③ カワセミ	④ コサギ
			
⑤ アオサギ	⑥ ゴイサギ	⑦ カイツブリ	⑧ イソシギ
			
⑨ ハクセキレイ	⑩ オナガ	⑪ ヒヨドリ	⑫ ムクドリ
			
⑬ シジュウカラ	⑭ メジロ	⑮ ウグイス	⑯ モズ
			
⑰ ハシブトカラス	⑱ スズメ	⑲ ワカケホンセイイン コ	⑳ マガモ

			
<p>21 ヒドリガモ</p>	<p>22 オナガガモ</p>	<p>23 キンクロハジロ</p>	<p>24 ホシハジロ</p>
			
<p>25 オオパン</p>	<p>26 コガモ</p>	<p>27 ユリカゴメ</p>	<p>28 キセキレイ</p>
			
<p>29 ツグミ</p>	<p>30 コアジサシ</p>	<p>31 ツバメ</p>	

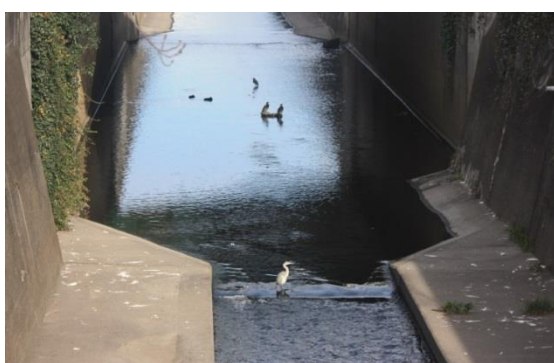
呑川河床の野鳥



呑川上流部の野鳥・カルガモ



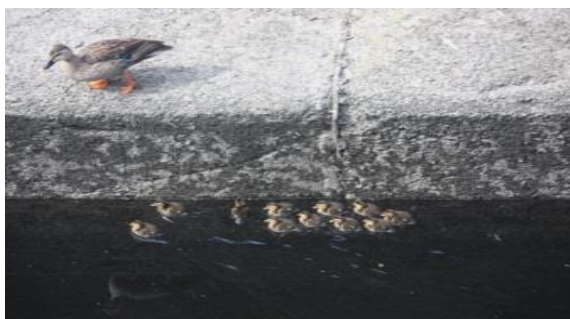
呑川上流部の野鳥・カルガモ・オナガガモ



池上橋付近（干潮域）



養源寺付近カルガモ、コガモの群れ



壺山橋付近・カルガモ親子（犬走りと水位面）



河口部・ユリカモメ



中流部・植栽



上流部・工大橋付近